

車への取り付けは、必ずこの取付説明書と別冊の「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外に取り付け方や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。

販売店様へ

接続、取り付け作業が完了しましたら、この取付説明書はお客様へお渡しください。

※ 別売製品の接続および取り付けについては、別売製品に付属の説明書も併せてご覧ください。

パイオニア株式会社

〒212-0031

神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

© パイオニア株式会社 2010

< KAMZX > < 10G00000 > < CRA4412-A/S >

作業の進めかた

①はじめに

- 接続・取り付け部品を確認する 2

②接続のしかた

- 接続の前に知ってほしいこと 4
- 接続端子の名称と働き 6
- システムの接続 8
- 電源コードの接続 (1) 10
- 電源コードの接続 (2) 12
- IP-BUS 機器 /VTR
/ リアモニターへの接続 14
- 携帯電話または BT AUDIO 機器 /
通信モジュール / USB メモリーの接続 16
- カメラの接続 18
- 5.1ch 対応・DSP ユニットとの接続... 20

③取り付けかた

- 取り付けの前に知ってほしいこと 22
- ナビゲーション本体の取り付け 23
- GPS アンテナの取り付け 26
- 音声認識用マイクの取り付け 27
- リモコンの取り付け 28
- フィルムアンテナの取り付け 32

④接続・取り付けが終わったら

- 接続・取り付けの確認を行う 40
- 取付角度の設定を行う 42
- サブウーファーの設定を行う 43
- AV 初期設定を行う 44
- センサー学習のエラーメッセージ 46

接続・取り付けが終わったら、必ず接続・取り付けの確認～ AV 初期設定 (P. 40～45 ページ) を行ってください。

接続・取り付け部品を確認する

ナビゲーション本体関係



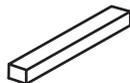
ナビゲーション本体× 1



バインドネジ
(5 × 8mm) × 8



皿ネジ
(5 × 8mm) × 8



スペーサー× 1



B-CAS カード× 1

接続ケーブル関係



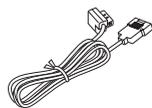
電源コード× 1



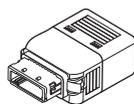
U エlementコネクター
× 1



RCA 入出力ケーブル
× 1



携帯電話接続中継
ケーブル× 1



USB 変換アダプター× 1

音声認識用マイク関係



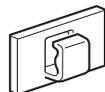
音声認識用マイク× 1



マイククリップ× 1



両面テープ
(15 × 12mm) × 1



クランパー× 3

GPS アンテナ関係



GPS アンテナ × 1



金属シート × 1



クランパー × 3

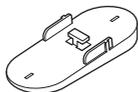


両面テープ
(25 × 34mm) × 1

リモコン関係



リモコン × 1



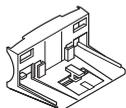
リモコンホルダー × 1



両面テープ × 1

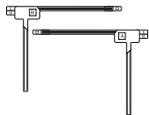


ベルト × 2



ステアリングホルダー × 1

フィルムアンテナ関係



フィルムアンテナ
A・B 各 2



アンテナケーブル
①・②・③・④
各 1



クリーナークロス × 1



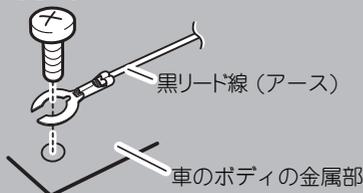
クランパー × 6

接続の前に知ってほしいこと

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

接続上のご注意

- 本機の黒リード線（アース）を必ず最初に車のボディの金属部に確実に接続してください。



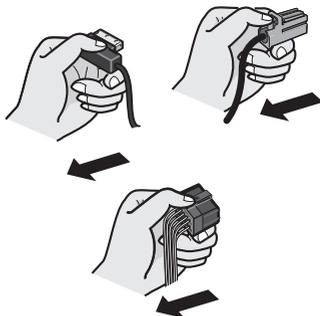
- 本機は、エンジンスイッチにACCポジションがない車では使用できません。絶対に取り付けしないでください。取り付けたと、バッテリー上がりの原因になります。
- 赤リード線（アクセサリ電源）は、常にバッテリーから電源が供給される電源回路には接続しないでください。接続すると車のバッテリーが消耗します。
- 若草色リード線（パーキングブレーキスイッチ）は、必ずパーキングブレーキスイッチの電源側に接続してください。接続しないと一部の機能が使用できなくなります。
- 黒リード線（アース）は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けたと、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となる恐れがあります。

- 必ず付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると故障する恐れがあります。
- スピーカーのリード線を直接アースしたり、複数のスピーカーの（-）リード線を、共通にして接続しないでください。
- 本機と組み合わせるスピーカーには、最大入力50W以上のハイパワー用で、インピーダンスが4Ωから8Ωのものを使用してください。規格以外のスピーカーのご使用は、スピーカーやアンプの発火・発煙・破損の原因となります。
- ガラスアンテナ車など、アンテナブースターの電源がある場合、必ず本機の青リード線（アンテナコントロール）を車側のアンテナブースターの電源に接続してください。接続を忘れるとラジオ放送の受信ができません。

アンテナブースターの電源の位置は、車種によって異なります。詳しくは、取り付け技術のある販売店にご相談ください。

コネクターの脱着のしかた

- コネクターは、“カチッ”と音がするまで押し込んで、確実に接続してください。
- スムーズに入らない場合は、色が間違っている可能性がありますので、コネクターどうしの色を確認してください。また、無理に挿入しないでください。故障の原因となる場合があります。
- コネクターを外すときは、図のようにコネクター部分を持ってロックを押しながら引っ張ってください。コードを引っ張るとコードが抜けてしまうことがあります。



接続のポイント

ノイズ防止のために

- ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
 - * フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
 - * FM/AM アンテナおよびそのアンテナコード
 - * GPS アンテナおよびそのアンテナコード
 - * ビーコン受信機およびそのアンテナコード
 それぞれのアンテナコードどうしでもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感が悪くなります。
- RCA コードに何も接続しない場合は、付属のキャップを外さないでください。

IP-BUS の接続について

- IP-BUS の端子とケーブルは、同じ色どうしを接続してください。(コネクターの接続部分が色分けされています。) 違う色のコネクターを接続すると、正常に動作しないことがあります。

電源配線キットを別売しています

- システム全体の消費電流が大きくなると、電圧が不足する場合があります。そのようなときは、バッテリーから直接電源をお取りください。当社では、電源配線キット「RD-221」を別売していますので、販売店にご相談ください。

携帯電話接続ケーブルまたは、Bluetooth ユニットの別売しています

- 当社では、携帯電話と組み合わせるための携帯電話接続ケーブルまたは、Bluetooth ユニットの別売しています。
 - * FOMA 用ケーブル「CD-H15」(2m)
 - * CDMA 1X WIN 用ケーブル「CD-H16」(2m)
 - * Bluetooth ユニット「ND-BT10」

メモ

- 本機に、PDC 用ケーブル「CD-H13」および CDMA 1X/cdmaOne 用ケーブル「CD-H14」および Bluetooth ユニット「ND-BT1」は接続できません。

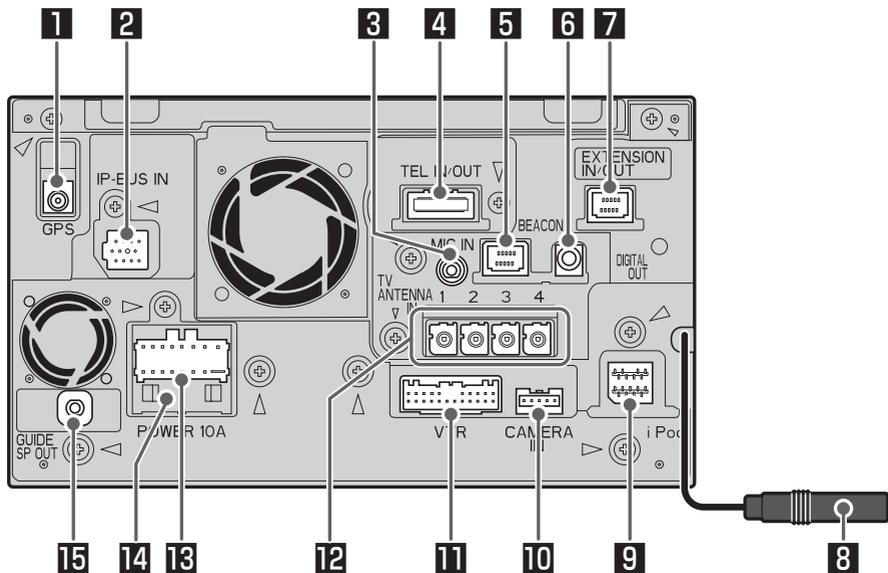
ピンクリード線の接続について

- ピンクリード線(車速信号入力)は、内蔵の3D ハイブリッドセンサー用のリード線です。必ず接続してください。
- ピンクリード線を接続しない場合は、簡易ハイブリッド方式で動作し、測位誤差が大きくなる場合があります。(※『ナビゲーションブック』の「ナビゲーションのしくみ」)
- ピンクリード線を車の車速検出回路に接続するのが困難な場合は、車速パルス発生機「ND-PG1」(別売)をお使いください。



接続端子の名称と働き

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—



1 GPS アンテナ接続端子 (緑)

付属の GPS アンテナを接続します。
(8 ~ 9 ページ)

2 IP-BUS 入力 (青)

別売の IP-BUS 機器が接続できます。
(14 ~ 15 ページ)

3 音声認識用マイク入力端子 (黒)

付属の音声認識用マイクを接続します。
(8 ~ 9 ページ)

4 通信機器接続端子 (赤)

携帯電話または BT AUDIO 機器 / 通信モジュール / USB メモリーが接続できます。
(16 ~ 17 ページ)

5 ビーコンユニット接続端子 (青)

別売の VICS 用ビーコンユニットが接続できます。
(8 ~ 9 ページ)

6 デジタル出力端子 (灰)

別売の光デジタル端子変換コネクター「CD-DD25」を使用して 5.1ch 対応・DSP ユニット「DEQ-P9」を接続できます。(20 ~ 21 ページ)

7 拡張入出力端子 (黒)

別売の ETC ユニットが接続できます。
(8 ~ 9 ページ)

8 AM/FM/VICS/FM 多重用アンテナ入力端子

車載のラジオ用アンテナを接続します。
(8 ~ 9 ページ)

9 iPod 接続端子 (黒)

別売の iPod 用接続ケーブル「CD-IO21」を使用して iPod を接続できます。
(8 ~ 9 ページ)

10 カメラ接続端子 (黒)

別売のバックカメラユニット「ND-BC30 II」や「ND-BC4」などを接続できます。
(18 ~ 19 ページ)

11 映像・音声入出力端子 (黒)

付属の RCA 入出力ケーブルを接続します。
(10 ~ 11, 14 ~ 15, 20 ~ 21 ページ)

12 フィルムアンテナ接続端子 (茶)

付属のフィルムアンテナを接続します。
(8 ~ 9 ページ)

13 電源端子 (黒)

付属の電源コードを接続します。
(10 ~ 13 ページ)

14 ヒューズ (10 A)

注：ヒューズを交換するときは、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

15 ガイドスピーカー出力端子 (青)

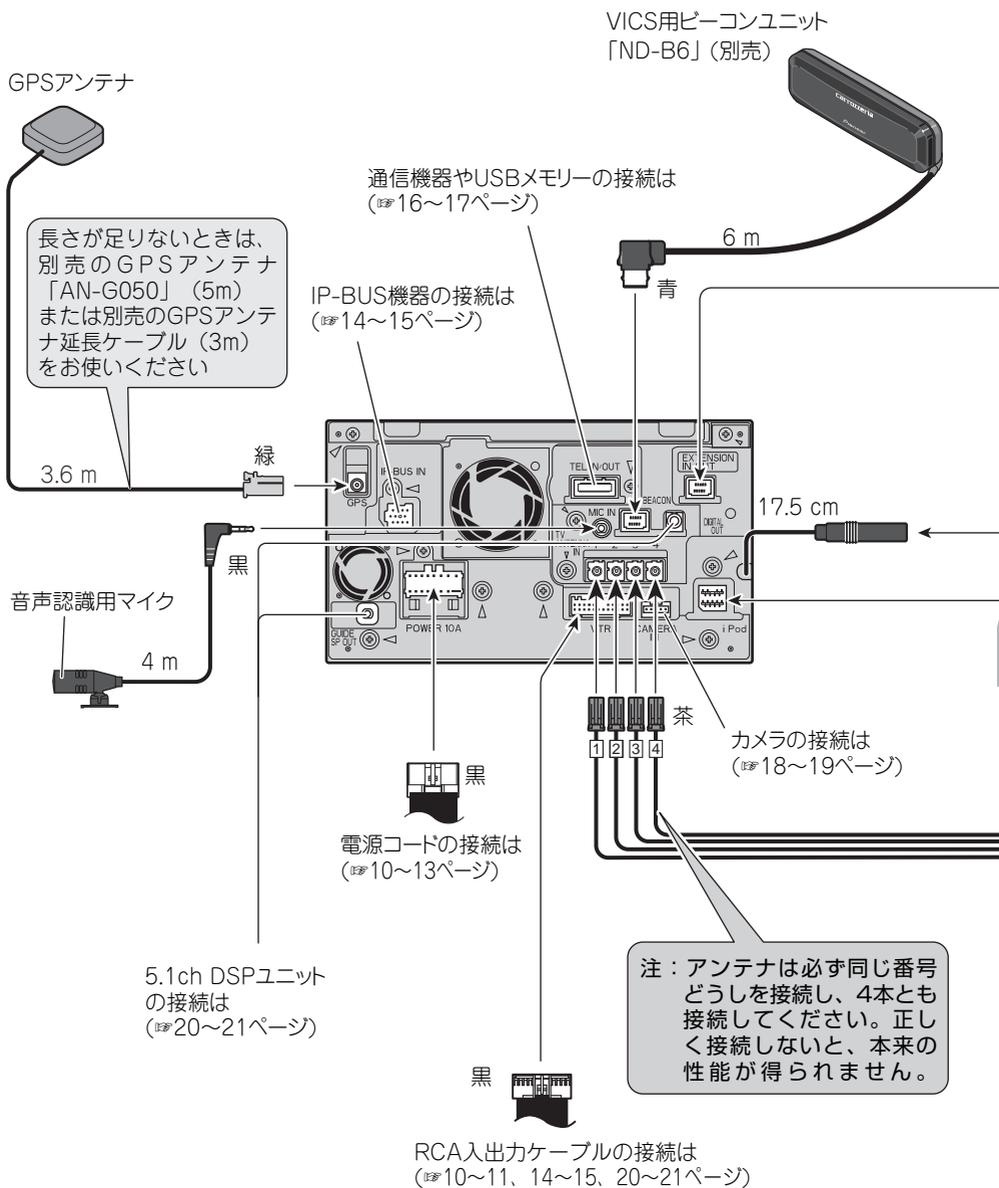
本機と 5.1ch 対応・DSP ユニット「DEQ-P9」を組み合わせた場合、ナビゲーションの音声案内を出力するために接続します。
(20 ~ 21 ページ)

※接続しない場合はシールをはがさないでください。



システムの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—



アンテナ分離型ETCユニット
「ND-ETC5」(別売)



iPod (別売)

6 m

黒

車載ラジオ用
アンテナプラグ



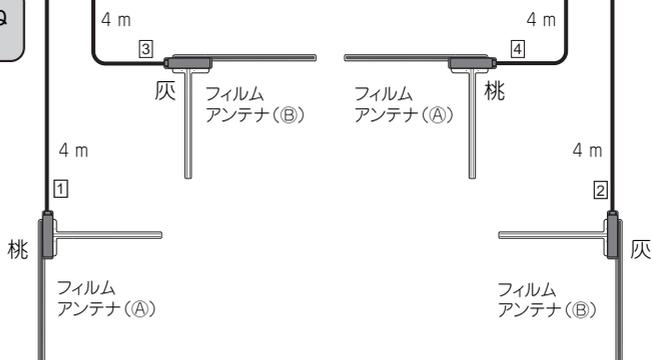
2 m

黒

iPod用接続ケーブル
「CD-I021」(別売)

電波を通さないガラスを使用した車種の場合は、地上デジタルTV用アンテナ(車室外取付用)「AN-GT22 II」(別売)を2セットお使いください。

注：他のコードと束ねないでください。



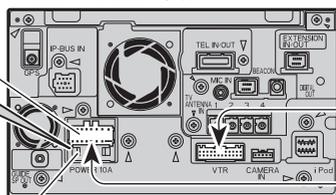
電源コードの接続 (1)

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

注：ヒューズを交換するときは、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

注：製品の発煙・故障を防ぐために、黒リード線を必ずいちばん初めに接続してください。

ナビゲーション本体



RCA出力ケーブル

ヒューズ (10 A)

電源コード

アース

車のボディの金属部に確実に接続してください。ノイズ防止のため、できるだけナビゲーション本体の近くに接続してください。

+バッテリー電源

車のエンジンスイッチのON/OFFに関係なく、常にバッテリーから電源が供給される電源回路に接続してください。

アクセサリ電源

車のエンジンスイッチをACCポジションにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。エンジンスイッチにACCポジションがない車には絶対に取り付けしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

イルミ電源

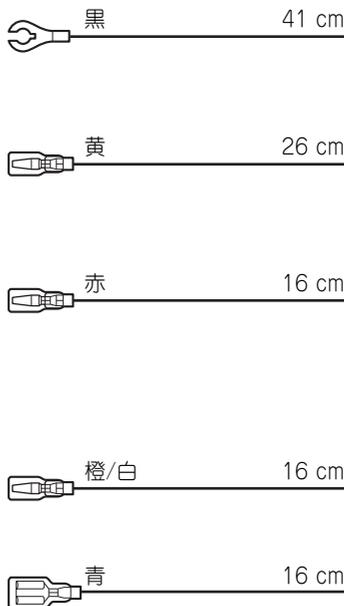
車のライトをONにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。

アンテナコントロール

アンテナをコントロールするために使用します。(12 V DC、300 mA以内でご使用ください。) 下記以外の場合は、何も接続しないでください。

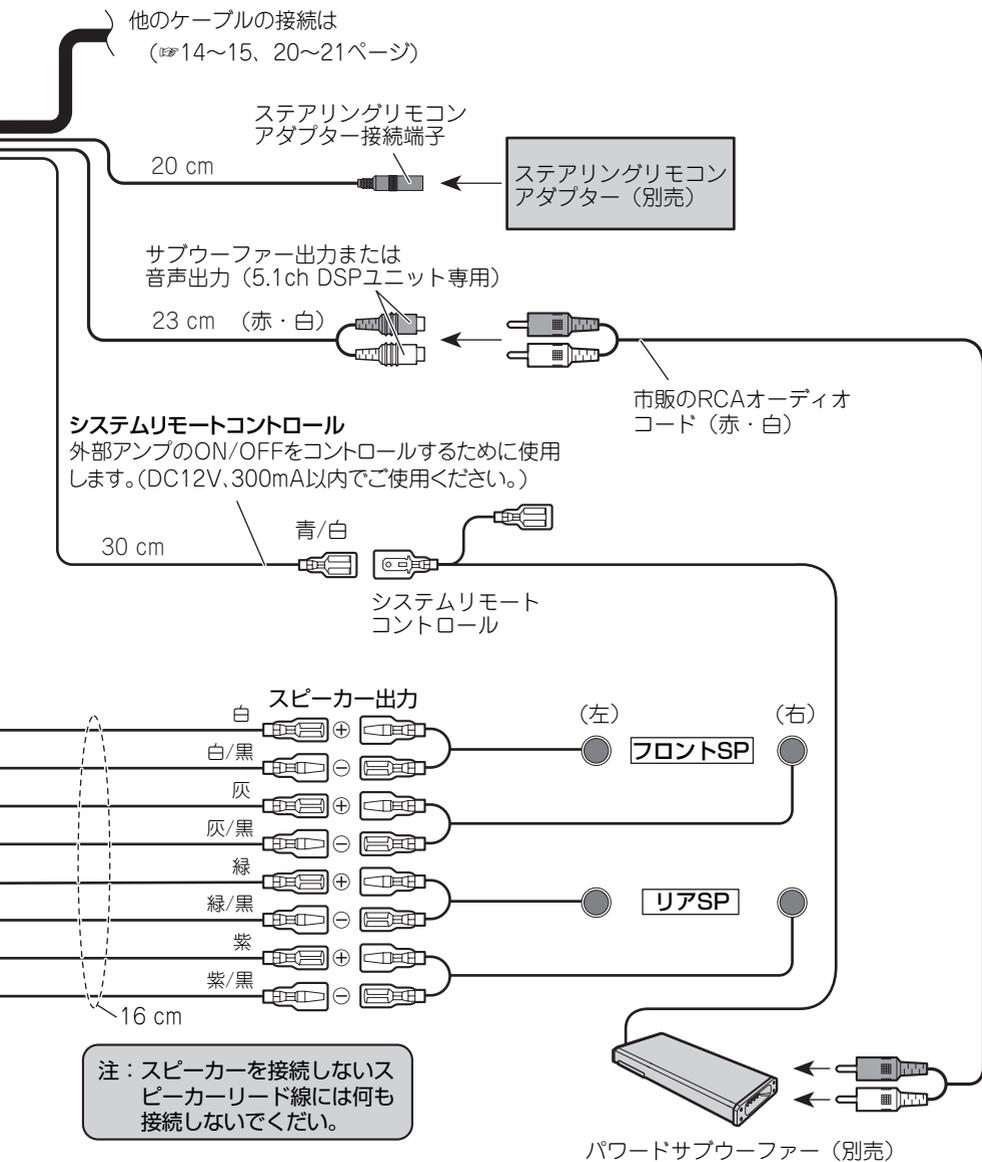
- オートアンテナ車の場合※：車側のオートアンテナのコントロール入力端子に接続してください。
- ルーフアンテナ車やガラスアンテナ車の場合：車側のアンテナブースターの電源入力端子に接続してください。

※車載のアンテナがオートアンテナの場合、エンジンスイッチのON（本機の電源ON）に連動してアンテナが上がります。屋内ではご注意ください。アンテナを下げるには、[お帰リ]タッチキーを2秒以上押します。



注：赤、橙/白、黄リード線は車のヒューズユニットを通したあとの端子に接続してください。

他のリード線の接続は (P.12~13ページ)



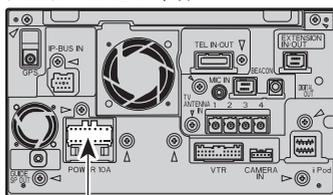
メモ

- 5.1ch 対応・DSP ユニットとの組み合わせ時には、サブウーファーは DSP ユニットに接続します。(※ 20 ~ 21 ページ)

電源コードの接続 (2)

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

ナビゲーション本体



電源コード
黒

他のリード線の接続は
(※10～11ページ)

バック信号入力

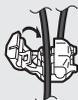
この接続は車の前進/後退を判断するためのものです。バックランプのリード線の「シフトレバーをリバースの位置にしたときに電圧が変化するリード線」に接続してください。

※接続しないと前進/後退を正しく検知できないことがあるため、自車位置がずれる場合があります。

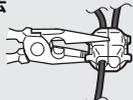
※別売のバックカメラユニットを利用する場合は必ず接続してください。接続しないとバックカメラ映像に切り換わりません。

紫/白 8 m

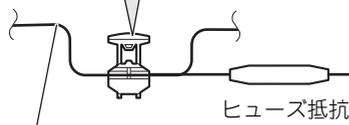
接続方法



バックランプの
リード線をはさ
み込む。



ラジオペンチで
強くはさむ。

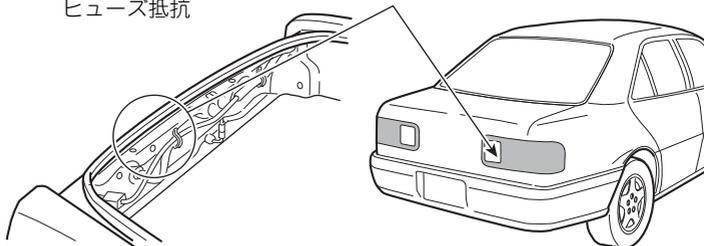


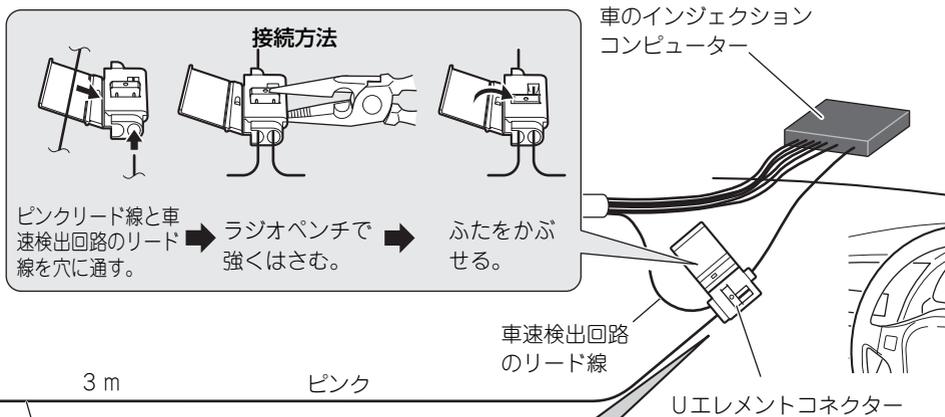
ヒューズ抵抗

バックランプの
リード線

注：電源リード線の、ヒューズ抵抗から本体の間に、他の機器のリード線を接続しないでください。

バックランプ(シフトレバーがリバース [R] のときに点灯するランプ)の位置を確認し、トランク内から、バックランプのリード線を取り出します。





車速信号入力

車の走った距離を検出するために使用します。
必ず車の車速検出回路に接続してください。
 (車の車速検出回路への接続が困難な場合は、
 車速パルス発生機「ND-PG1」(別売)を接続
 することもできます。)

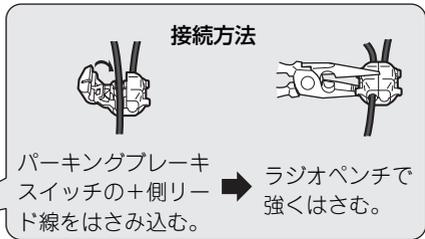
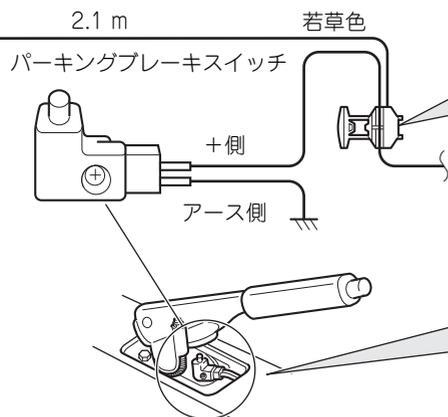
※別売のフロントカメラユニットを利用する場
 合は必ず接続してください。接続しないとフ
 ロントカメラ映像に切り換わりません。

注：必ず付属のUエレメントコネクターを使
 用してください。指定以外の物を使用す
 ると接触不良の原因となります。

インジェクションコンピューターの車速検出回
 路の位置は、車種によって異なります。詳しく
 は、お買い上げの販売店にご相談ください。

パーキングブレーキスイッチ

車が停車していることを確認するために使用
 します。必ずパーキングブレーキスイッチの
 +側リード線に接続してください。

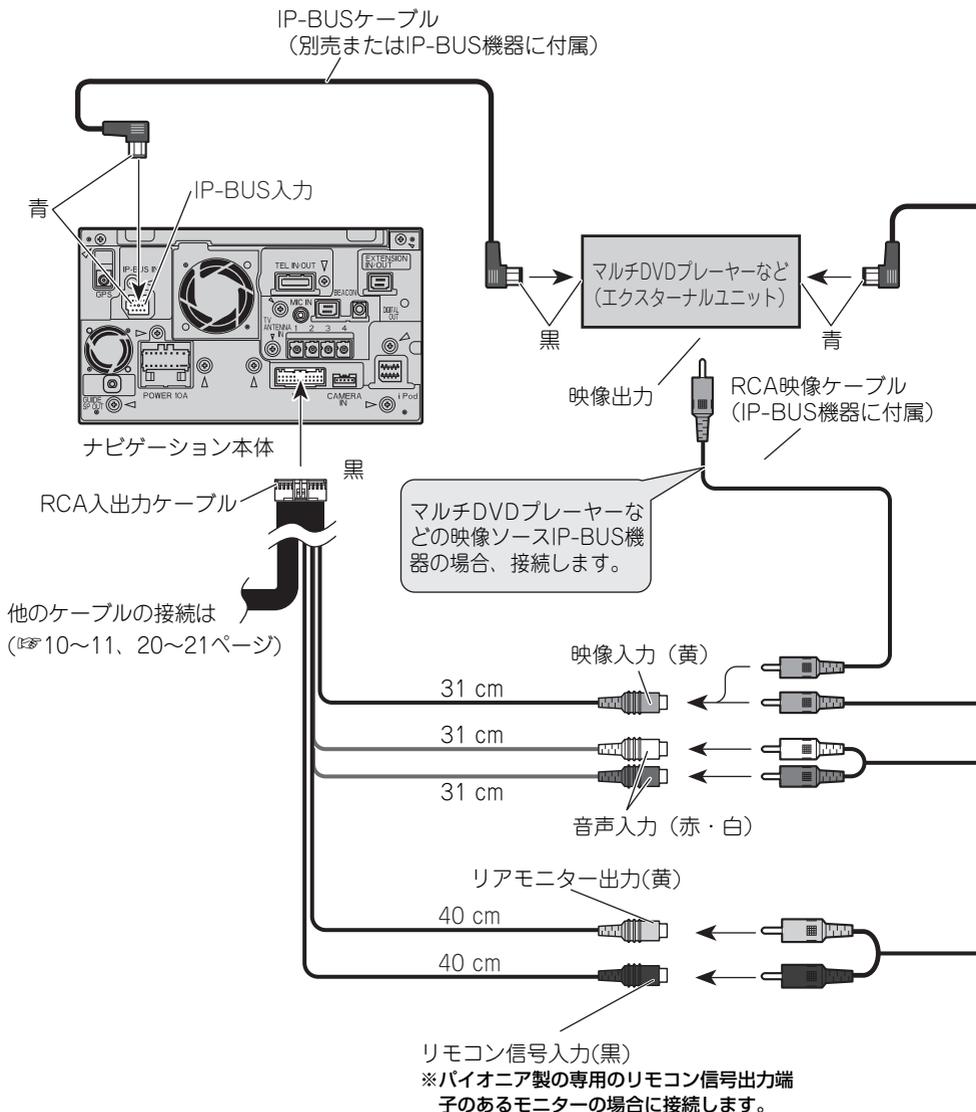


パーキングブレーキスイッチの位置は、
 車種によって異なります。詳しくはお買
 い上げの販売店にご相談ください。

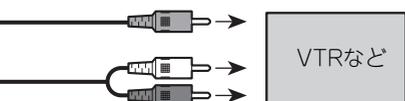
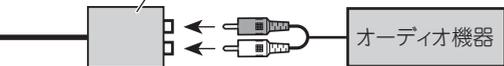


IP-BUS 機器 /VTR/ リアモニターへの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—



RCA・バスインターコネクター
「CD-RB10」(別売)



⚠ 注意

- 接続したリアモニターは、運転者が走行中に映像を見ることができない位置に設置してください。
- パイオニア製「TVM-W シリーズ」以外のモニターを接続した場合は画像が乱れる場合があります。また、フロントモニターに表示される映像と画質は異なります。

リアモニター付属
RCAコード



メモ

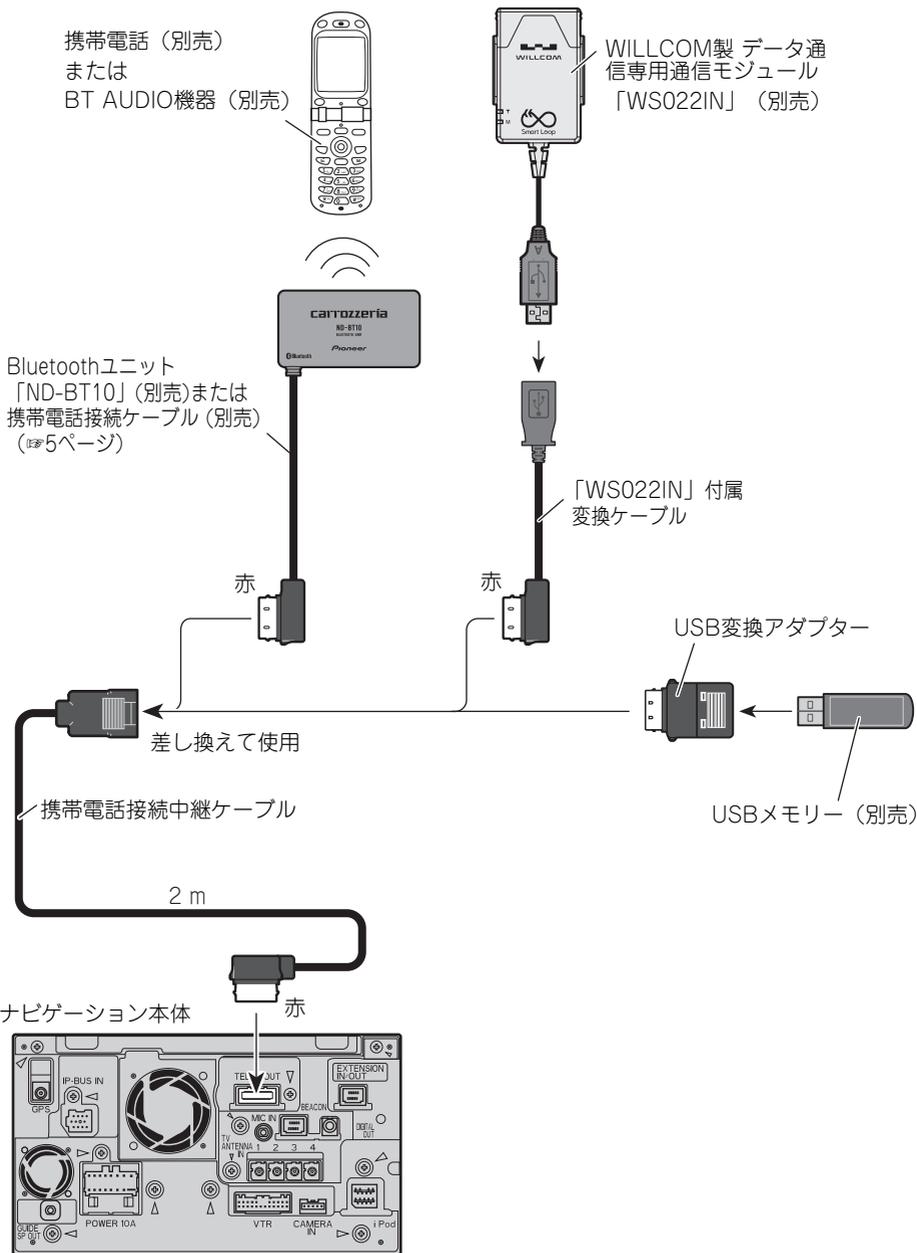
- 接続する IP-BUS 機器にモードスイッチがある場合、IP-SOURCE モードに設定してください。詳しくは、IP-BUS 機器の取付説明書をご覧ください。
- エクスターナルユニットは 2 台まで接続できます。エクスターナルユニットについては、『オーディオブック』の「エクスターナルユニットの操作のしかた」をご覧ください。
- 本機にマルチ CD プレーヤー「CDX-P シリーズ」は接続できません。
- VTR や映像ソースのエクスターナルユニットを接続したときは、「AV 初期設定」の【映像入力設定】の設定が必要です。(44 ページ)



携帯電話または BT AUDIO 機器

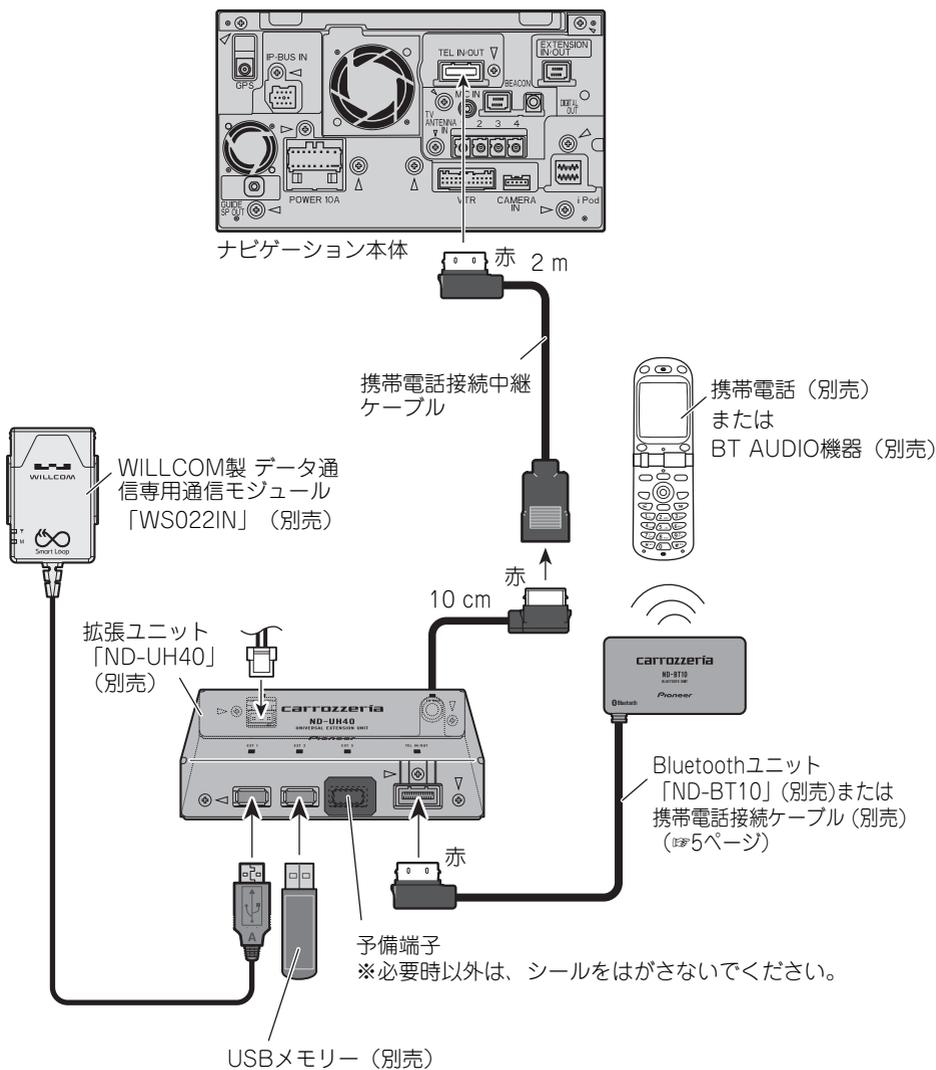
—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

携帯電話または BT AUDIO 機器 / 通信モジュール / USB メモリーのいずれかを接続する場合



/ 通信モジュール / USB メモリーの接続

携帯電話または BT AUDIO 機器 / 通信モジュール / USB メモリーを同時に接続する場合



接続のしかた

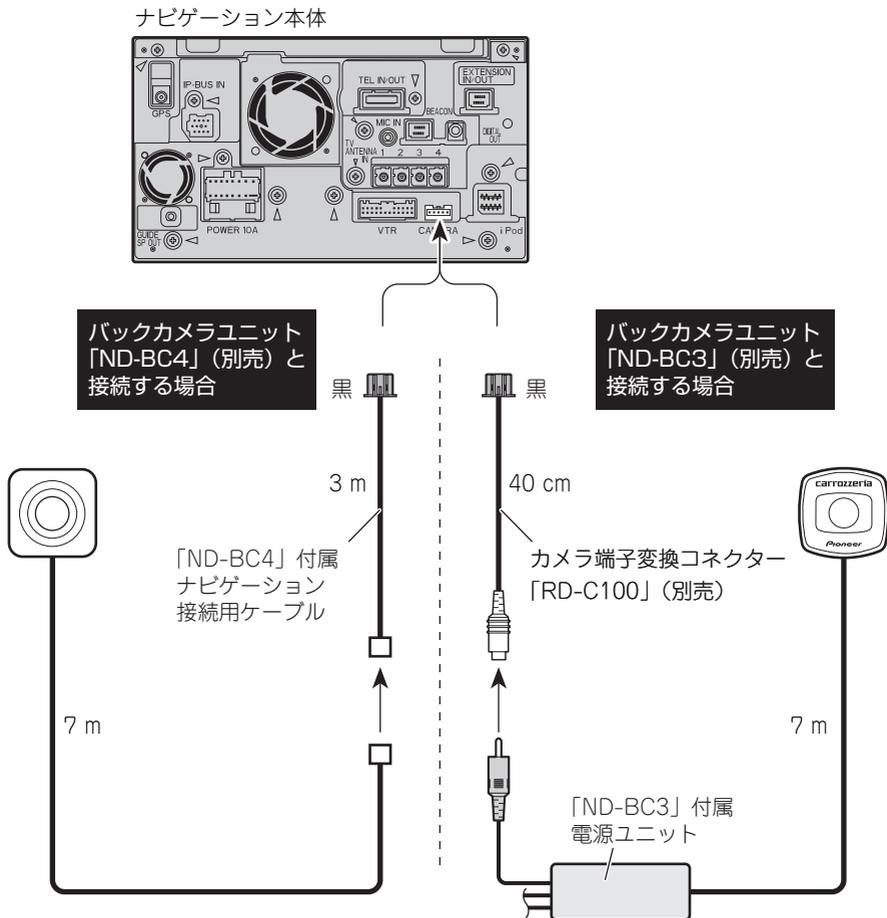
カメラの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

本機には、別売の汎用バックカメラユニット「ND-BC シリーズ」や専用バックカメラユニット「ND-BC30 II」が接続できます。

汎用バックカメラユニットを接続する場合

本機に RCA 出力の汎用バックカメラユニット「ND-BC シリーズ」を接続することができます。

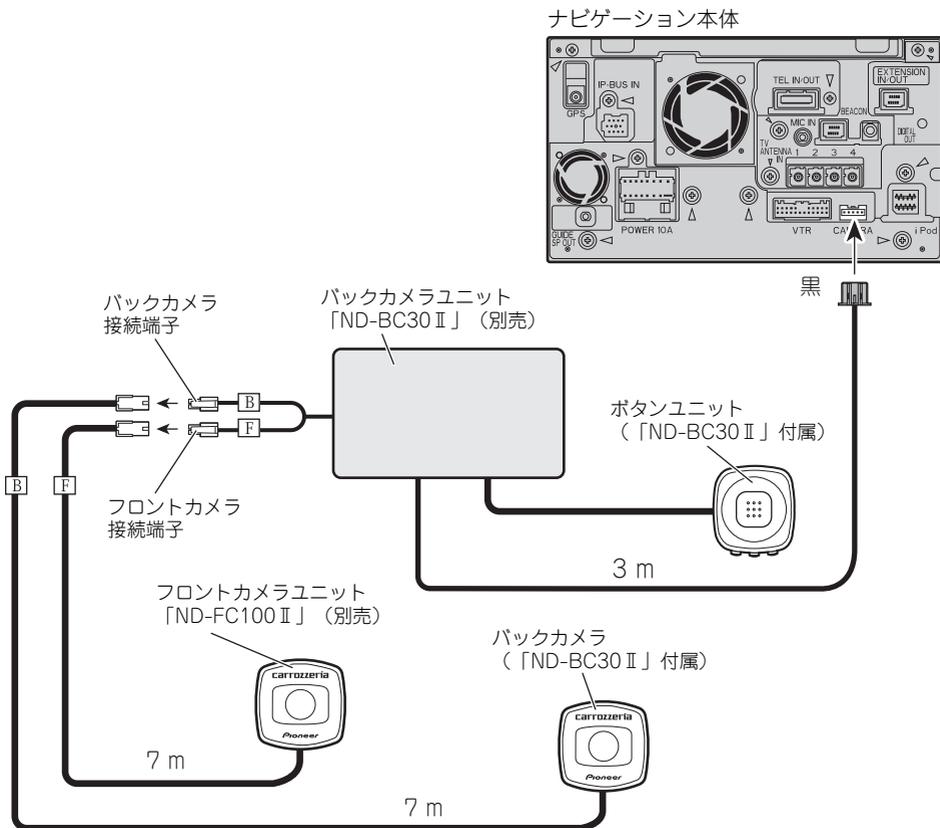


メモ

- バックカメラユニット「ND-BC4」には、ナビゲーション接続用ケーブルが付属していますので、別売のカメラ端子変換コネクタ「RD-C100」は必要ありません。
- 本機にバックカメラを接続したときは、バック信号入力線 (☞ 12 ~ 13 ページ) の接続と、AV 初期設定の【カメラ設定】と【バックカメラ極性】の設定 (☞ 44 ページ) が必要です。
- 別売のバックカメラユニット「ND-BC100 II」はご使用になれません。

専用バックカメラユニットを接続する場合

本機に専用バックカメラユニット「ND-BC30 II」を接続した場合は、フロントカメラユニット「ND-FC100 II」を接続することもできます。



接続のしかた

メモ

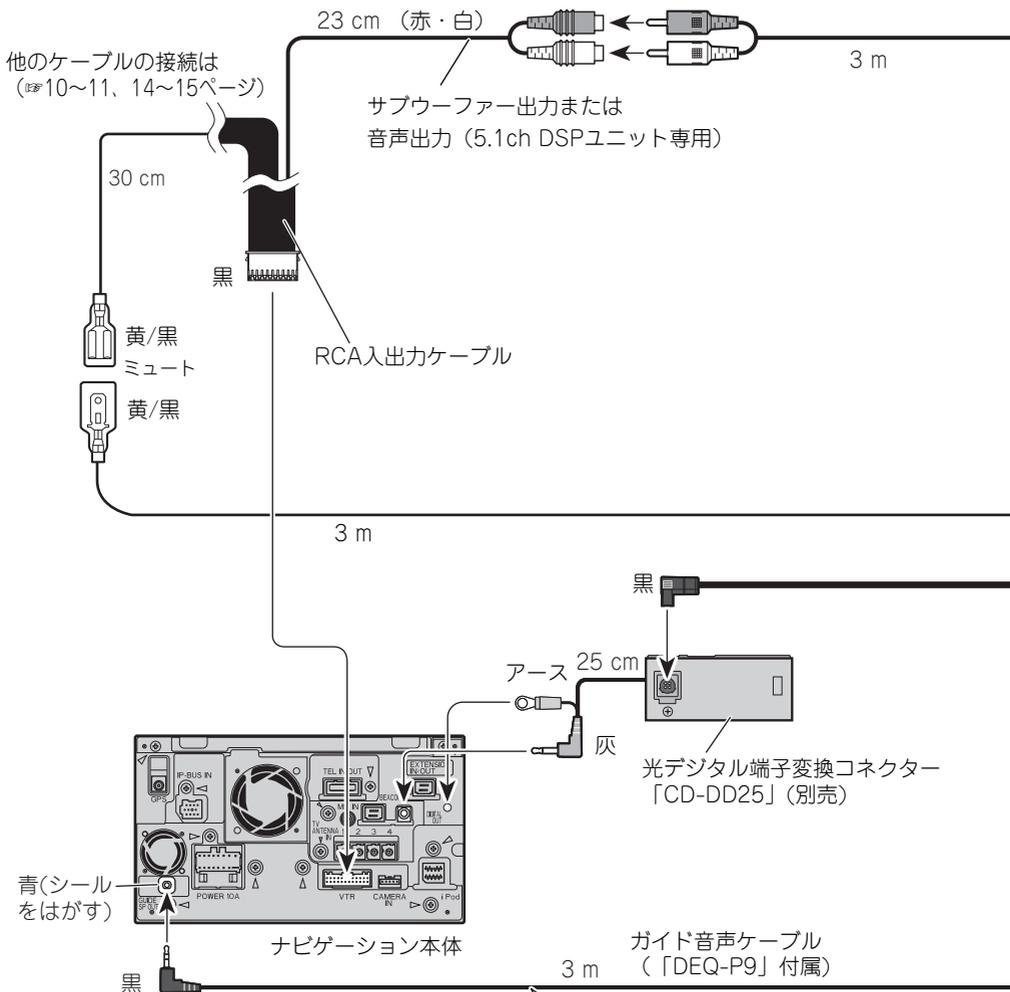
- 本機にバックカメラを接続したときは、バック信号入力線 (P. 12 ~ 13 ページ) の接続と、AV 初期設定の【カメラ設定】と【バックカメラ極性】の設定 (P. 44 ページ) が必要です。
- 「ND-BC30 II」にフロントカメラ「ND-FC100 II」を接続したときは、車速信号入力線 (P. 12 ~ 13 ページ) の接続と、AV 初期設定の【カメラ設定】の設定 (P. 44 ページ) が必要です。また、フロントカメラの映像を表示させるには、あらかじめカスタムボタンにフロントカメラ映像表示機能を割り当てる必要があります。(P. 『ナビゲーションブック』 - 「カスタム設定」)
- 「ND-BC30 II」をお使いになる場合は、「ND-BC30 II」側の操作でカメラ設定 (取付角度の調整など) を行う必要があります。詳しくは「ND-BC30 II」の取扱説明書をご覧ください。
- 別売のバックカメラユニット「ND-BC100 II」はご使用になれません。



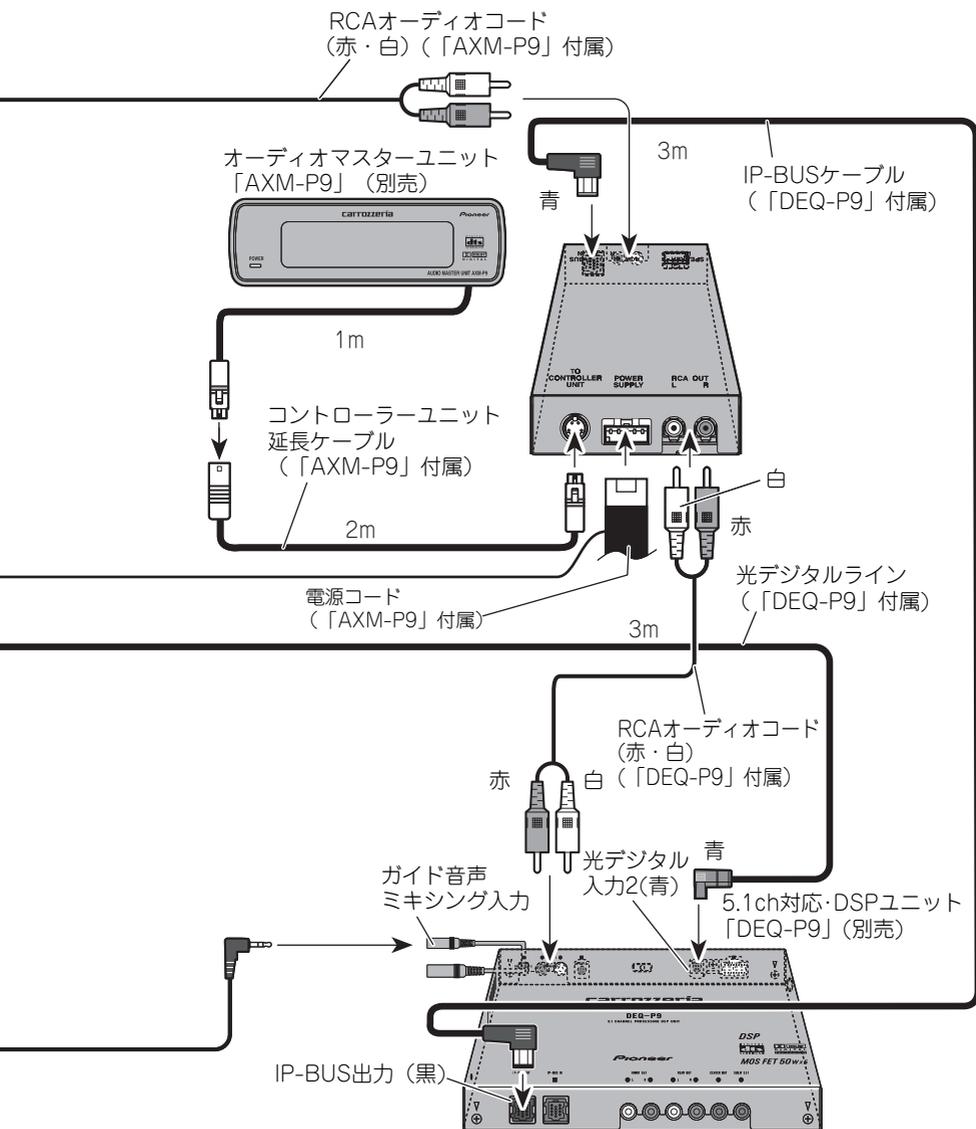
5.1ch 対応・DSP ユニットとの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

本機には、パイオニア製の 5.1ch 対応・DSP ユニット「DEQ-P9」とオーディオマスターユニット「AXM-P9」が接続できます。



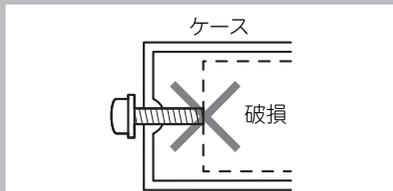
「AXM-P9」はソースONにしてください。ソースOFF時、ナビゲーションのガイド音声は出力されません。この状態でガイド音声を出力させる場合は、ガイド音声用スピーカー「CD-TS36G」(別売)を使用します。



取り付けの前に知ってほしいこと

取り付け上のご注意

- 必ず本機に付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できずに外れたりして危険です。



取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

- まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認します。このときアンテナ類などは、受信状態のよい位置を確かめてから取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

粘着テープを貼り付ける前に

- マジックテープや両面テープを貼り付ける場所は、汚れをよくふきとってください。

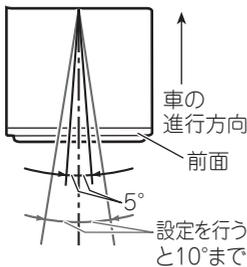
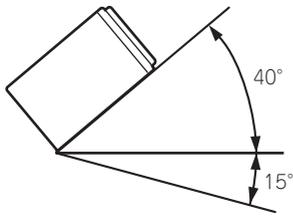
ノイズ防止のために

- フィルムアンテナの取り付けのしかたによっては、ラジオ放送に雑音が入る場合があります。フィルムアンテナは、フィルムアンテナの取り付け（※32ページ）の説明に従って正しく取り付けてください。
- ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
 - * フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
 - * FM/AM アンテナおよびそのアンテナコード
 - * GPS アンテナおよびそのアンテナコード
 - * ビーコン受信機およびそのアンテナコード
 それぞれのアンテナコードどうしもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感が悪くなります。

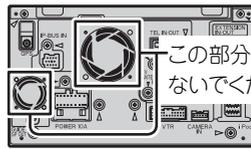
ナビゲーション本体の取り付け

取り付け上のご注意

- 本機の性能を十分に発揮するために、上下の傾きはできるだけ水平に取り付けてください。傾けて取り付ける場合は、水平に対して上の傾き 40 度以内、下の傾き 15 度以内の角度で取り付けてください。左右の傾きは車の進行方向に対してナビゲーション本体の前面が 5 度以内の角度で取り付けてください。5 度以上 10 度以内のコンソールに取り付ける場合は、「取付角度の設定を行う」(P.42 ページ) で向きを設定してください。



- 必ず本機に付属のネジを使用して取り付けてください。付属のネジよりも長いネジを使用すると、本機内部の部品をいためることがあります。
- 放熱を妨げないために、下図の部分のを塞がないように配置してください。



この部分を塞がないでください。

取り付けのポイント

取付キットを別売しています

- 日産車に取り付ける場合は、車種や年式によって別売の日産車用取付化粧パネル「ADT-N979 II」が必要になることがありますので、販売店にご相談ください。
- ※ 本機に「ADT-N979 II」を使用する場合は、上部にすきまができるようにパネルを上方向に寄せて取り付けてください。パネルを固定する際は、左右のみテープ止めを行い、上下にはテープを貼らないでください。

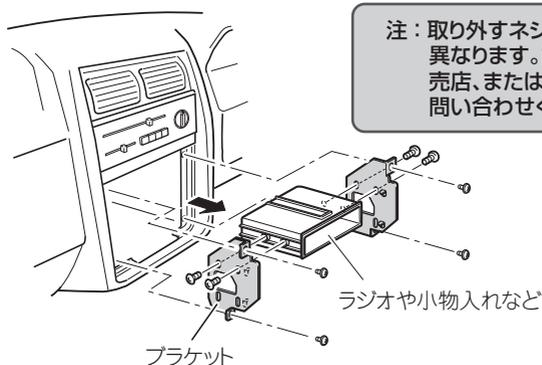
- 車種や年式によっては、別売のパイオニア製取付キットを使用しないと、取り付けられないこともあります。当社では車種別専用取付キットを用意してありますので、販売店にご相談ください。

ナビゲーション本体の取り付け

つづき

1 車両のラジオ、小物入れなどを取り外す

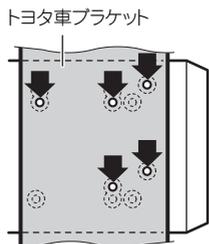
ラジオ、小物入れなどを取り外し、それらを止めているブラケットを取り外します。そのブラケットを使用して、本機を取り付けます。



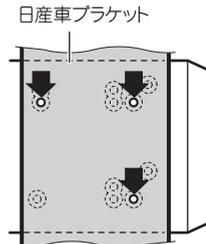
2 ネジ止めする位置を確認する

ブラケットを本機に重ねて、ネジ穴が合う位置を確認してください。次のネジ穴のうち4カ所または3カ所合う位置があります。

トヨタ車の場合

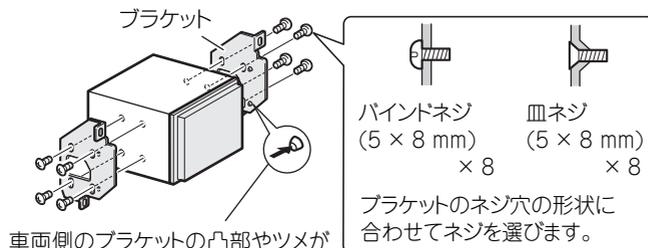


日産車の場合



3 ブラケットを付属のネジで取り付ける

左側、右側、それぞれ4カ所（または3カ所）ずつ、付属のネジでネジ止めして、元どおり車に取り付けます。



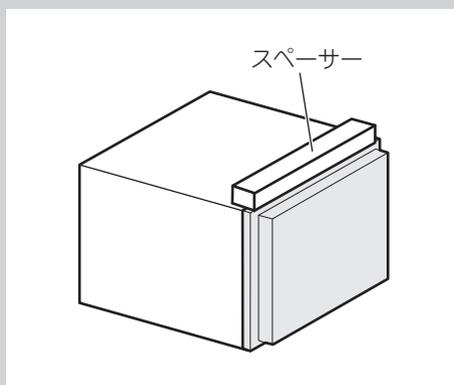
車両側のブラケットの凸部やツメが邪魔になり、浮いてしまう場合は、それらをハンマーなどでつぶす必要があります。

* 作業の際には安全に十分ご注意ください。

**注：付属のネジ以外は使用しないでください。
付属のネジよりも長いネジを使用すると、
本機内部の部品をいためることがあります。**

ナビゲーション本体取り付け後のご注意

ナビゲーション本体を取り付けたあと、車両との間にすきまがある場合は、ナビゲーション本体にスペーサーを貼ってすきまをふさいでください。なお、スペーサーを貼る手順は、車両によって異なります。



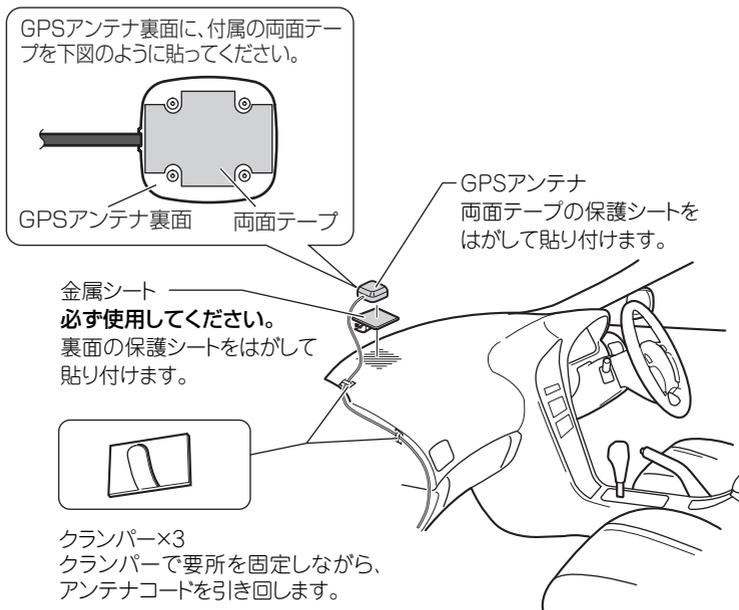
GPS アンテナの取り付け

取り付け上のご注意

- 付属の GPS アンテナは車室内取付専用です。電波を通さないガラスを使用した車種の場合は、別売の GPS アンテナ（車室外取付用）「AN-G050」（5m）をお使いください。
- GPSアンテナは、ワイパーやピラーなどで遮られない場所に水平に取り付けてください。
- GPS アンテナを塗装しないでください。アンテナの性能が落ちる場合があります。
- GPS アンテナの取り付けには、必ず付属の金属シートを使用してください。使用しないと、十分な受信感度が得られなくなります。
- 付属の金属シートは、切って小さくしないでください。十分な受信感度が得られなくなります。
- GPS アンテナは、ナビゲーション本体から 30cm 以上離して設置してください。また、余った GPS アンテナコードをまとめて置くとともに、ナビゲーション本体から 30cm 以上離して置いてください。近くに設置すると、受信感度が低下する場合があります。
- GPS アンテナを取り外すときは、アンテナコードを引っ張らないでください。コードが抜けてしまうことがあります。

取付例（ダッシュボード上）

車室内のなるべく水平な場所でアンテナがウィンドウの外に向く場所に金属シートを貼り付け、GPS アンテナを金属シートの上に貼り付けます。アンテナの取り付け位置は [接続状態] 画面 (P. 40 ページ) を参考に、十分に受信できる位置に取り付けてください。



音声認識用マイクの取り付け

取り付け上のご注意

ハンズフリー時に明瞭な音質を得るために、マイクはできるだけドライバーの近くに取り付けてください。また、エコー（反響音）を軽減するため、なるべく車のスピーカーから離れた位置に設置してください。

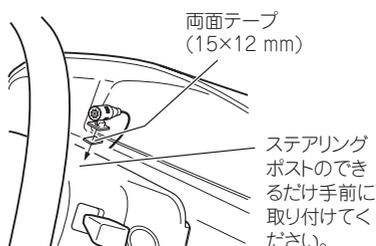
サンバイザーにはさんで取り付ける場合

1 マイククリップにマイクを取り付ける



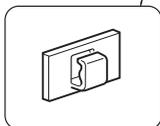
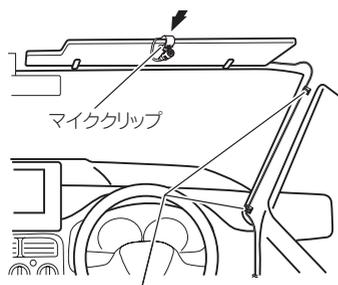
ステアリングポストに取り付ける場合

1 ステアリングポストにマイクを取り付ける



2 サンバイザーにマイククリップを取り付ける

サンバイザーを上げた状態で取り付けます。サンバイザーを下げると、正しく音声認識されません。

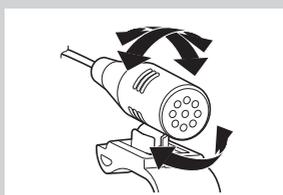


クランパー×3 クランパーで要所を固定しながら、マイクコードを引き回します。



マイク角度の調節のしかた

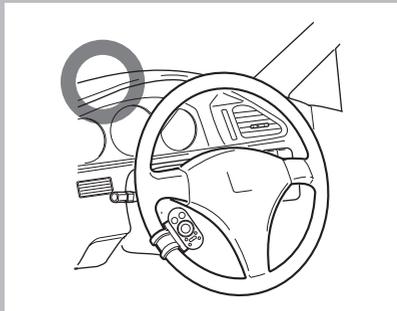
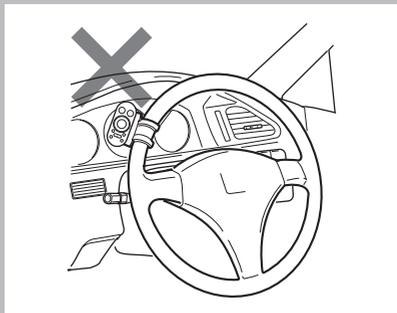
マイクの角度は、マイククリップの可動部を矢印の方向に動かして調節します。



リモコンの取り付け

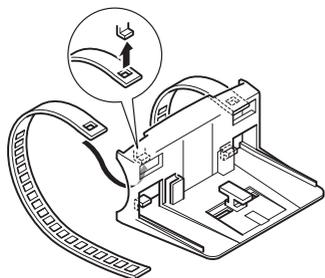
取り付け上のご注意

- リモコンは必ず固定しておいてください。固定しないで放置しておくと、リモコンが転がり、ブレーキペダルの下に入り込むと大変危険です。
- エアバッグなどの車の安全装置が働いたときに、その動作の妨げになる場所には絶対に取り付けないでください。
- 車のメーター類の、視認の妨げになる場所には取り付けないでください。
- 取り付ける位置や向きによっては、リモコンの信号がリモコン受光部にとどかない場合があります。固定する前に、取り付ける位置で、動作確認を行ってください。
- ハンドルに取り付けるときは、ハンドルの左または右側のリモコン受光部に近い方（右ハンドル車の場合はハンドルの左側、左ハンドル車の場合は右側）に取り付けてください。逆側に取り付けると、ステアリングリモコンの信号がリモコン受光部にとどかないため、動作しないことがあります。
- ハンドルに取り付けるときは、付属のベルトでしっかりと固定してください。しっかり固定しないと、運転操作の邪魔になり、交通事故の原因となります。
- ハンドルに取り付けるときは、ハンドルの外側に取り付けしないでください。運転操作の邪魔になり、交通事故の原因となります。必ずハンドルの内側に取り付けてください。

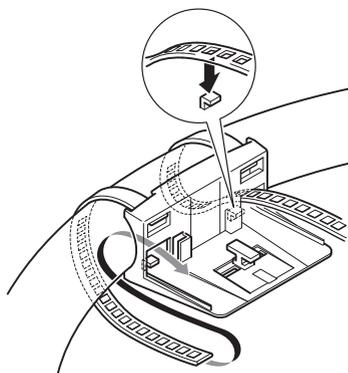


ハンドルに取り付ける場合

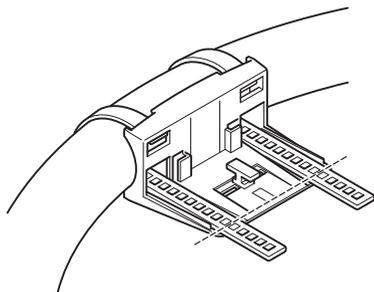
1 ステアリングホルダーにベルトを取り付ける



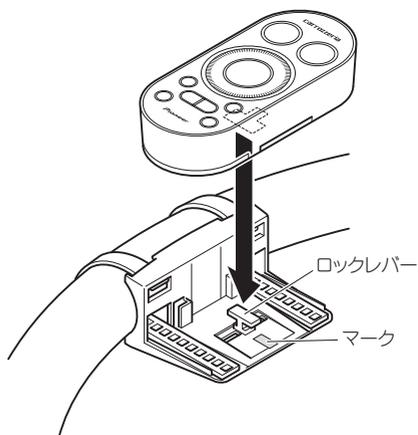
2 ハンドルにベルトを巻き付け、ステアリングホルダーを固定する



3 ベルトの余りを切り取る



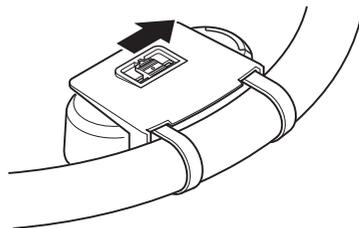
4 ステアリングリモコンを取り付ける



メモ

- 取り付け前に、ロックレバーがマークの位置にあることを確認してください。

5 裏側のロックレバーを“カチッ”と音がするまでスライドしてリモコンを固定する



メモ

- 上図は右ハンドル車の例です。左ハンドル車に取り付ける場合は左右逆に取り付けてください。

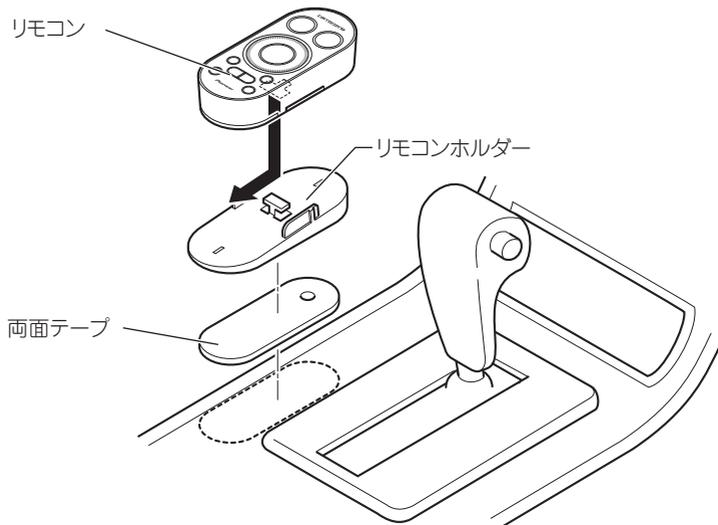


リモコンの取り付け

つづき

両面テープでコンソールに取り付ける場合

付属の両面テープを使用して、リモコンホルダーを貼り付けます。



リモコンの取り外しかた

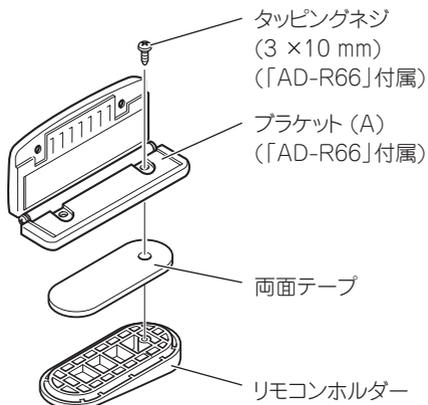
リモコンをリモコンホルダーから取り外すときは、図のようにスライドさせてから取り外します。



別売の「AD-R66」を使用してコンソールに取り付ける場合

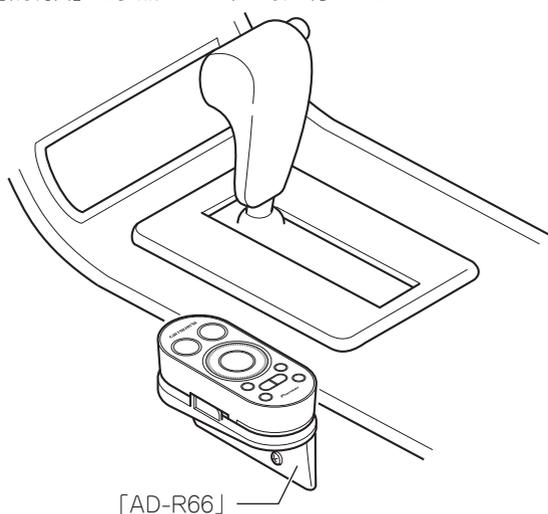
センターコンソールの幅が狭く、センターコンソール上にリモコンの取り付けスペースがない場合は、別売のメインコントローラーアタッチメント「AD-R66」を使用して取り付けます。

1 「AD-R66」に付属のブラケット (A) にリモコンホルダーを取り付ける



2 「AD-R66」を車に取り付ける

「AD-R66」の『取付説明書』を参照して、車に取り付けます。



フィルムアンテナの取り付け

取り付け上のご注意

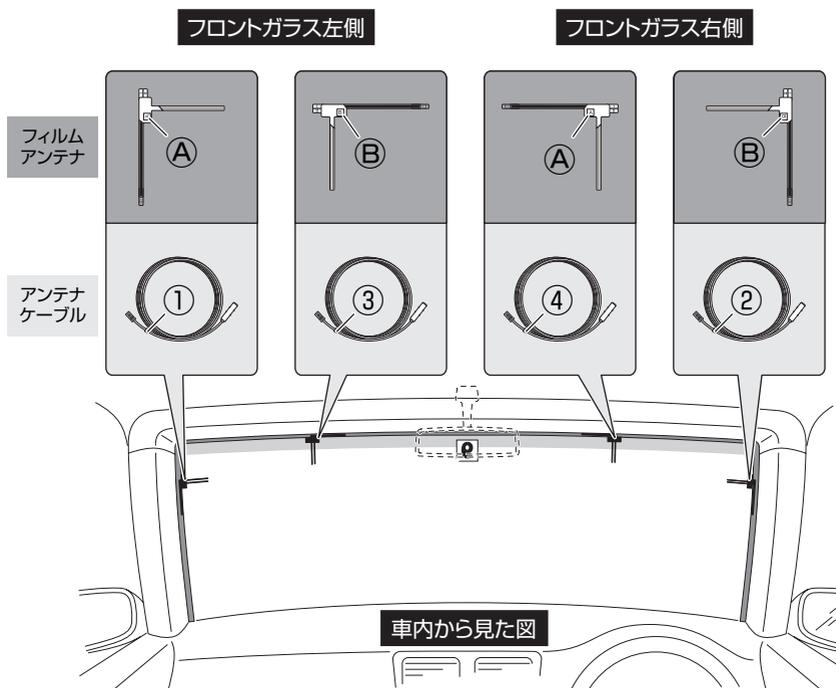
- 保安基準*に適合させるため、本書をよくお読みになり、正しく貼り付けてください。
- * 保安基準とは、道路運送車両の保安基準第29条第4項第6号に対する、平成15年9月26日付の運輸省(現、国土交通省)令第95号をいいます。
- アンテナは、フロントウィンドウ貼り付け専用です。フロントウィンドウ以外には取り付けないでください。
- 熱線やプリントアンテナ上には貼り付けないでください。ショートや発熱、性能劣化の原因になります。
- 本書では、フィルムアンテナの取り付け前に車内の内張りを取り外すよう説明していますが、ピラーにフロントエアバッグを搭載している車両の場合は、絶対にピラーを取り外さないでください。フロントエアバッグの誤動作などの原因となり大変危険です。ピラーを取り外さずにフィルムアンテナを取り付ける方法について、詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 必ずフロントウィンドウの指定の位置・寸法内に貼り付けてください。
- 車室内に取り付けるアンテナは、エアコン用モーターなどから出るノイズにより、テレビの映りが悪くなる場合がありますが、故障ではありません。
- 車種によって、取り付けられない場合があります。販売店に相談してください。
- 熱線反射ガラスや断熱ガラス、電波不透過ガラスなど、電波を通さないガラスを使用した車種の場合には、受信感度が極端に低下します。お買い上げの販売店に確認してください。
- 必ず車内の取り付け場所に、市販のテープなどでいったんフィルムアンテナとアンテナケーブルを仮止めして、エレメントとアンプが貼り付けられることを確認してください。
- フィルムアンテナのフィルムやアンプの裏シートをはがしたあとは、給電端子などに手を触れないでください。静電気による故障や汗や汚れなどで接触不良の原因となります。
- フィルムアンテナは折り曲げないように、取り扱いに注意してください。
- 作業場所は、風が無く、空気中にゴミ、ホコリなどが無い場所を選んでください。
- 気温が低いときやガラスがくもってしまう場合は、接着力の低下を防ぐため、車内ヒーターやデフロスタースイッチをONにしてウィンドウを暖めておいてください。
- 他のアンテナから10cm以上離して取り付けてください。
- 指定の位置や寸法内に取り付けられないことがあります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- アンテナの余りをまとめる時は十分な曲げ角度(半径15mm以上)を確保してください。

他のフィルムアンテナとの干渉を考慮して貼り付け位置を決めてください。

一度貼り付けると、粘着力が弱くなるため貼り直してきません。必ずアンテナケーブルおよびフィルムアンテナを仮止めし、アンテナケーブルの引き回しなどを十分に検討してから貼り付けてください。

貼り付け位置について

フィルムアンテナは、A、Bの2種類、フィルムアンテナケーブルは①、②、③、④の4種類があり、組み合わせるフィルムアンテナとアンテナケーブルは決められています。それぞれを組み合わせ、下記的位置に張り付けてください。



取り付けかた



フィルムアンテナの取り付け

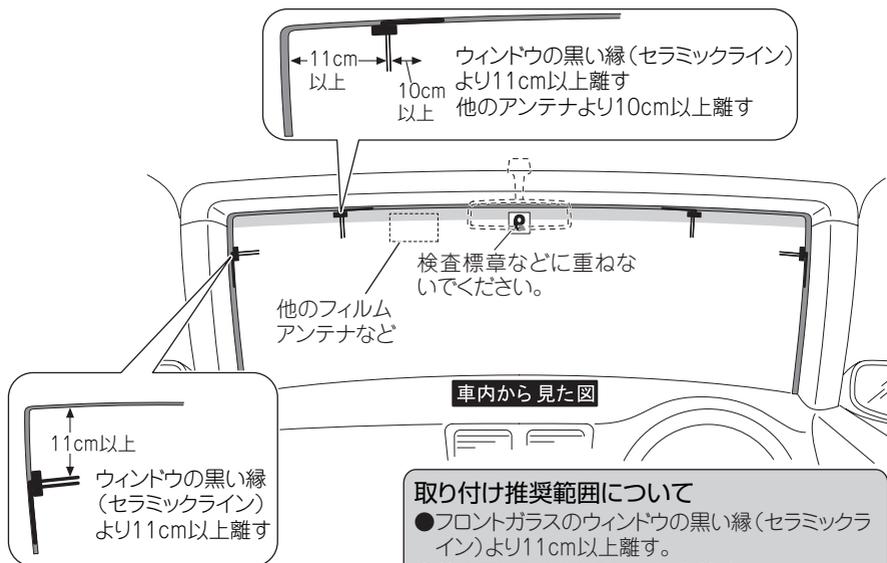
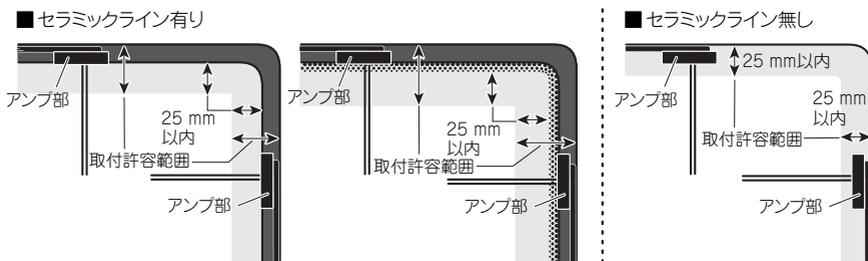
つづき

貼り付け位置について (つづき)

⚠️ 必ずお守りください

運転に安全な視野を確保し、性能を十分に発揮させるために、必ず「アンブ部の貼付許容範囲」の位置に貼り付けてください。許容範囲外に貼り付けると道路運送車両の保安基準に適合せず、車検に通らなかったり、整備不良の対象となります。

アンブ部の貼付許容範囲



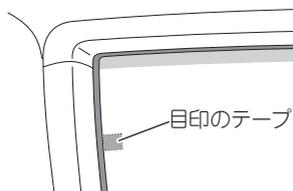
フィルムアンテナを貼り付ける

メモ

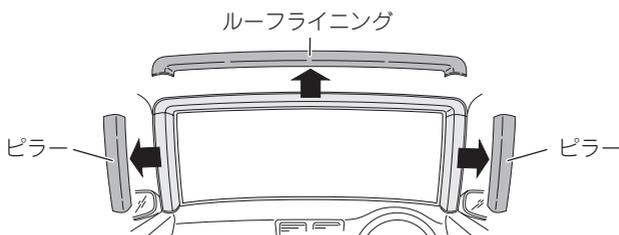
- フィルムアンテナは④用で説明しています。

1 フィルムの仮位置を決める

フィルムアンテナの貼り付けの際、「貼り付け位置について」を参照して仮位置を決め、テープなどで目印を付けてください。



2 車内の内張り（ピラー、ルーフライニングなど）を取り外す



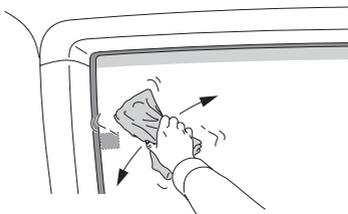
3 ケーブルを引き回す仮位置を決める

フィルムアンテナの取り付け

つづき

4 フロントウィンドウ内側の汚れ、油などを取り除く

フィルムアンテナを貼り付ける場所の湿気、ホコリ、汚れ、油などを、付属のクリーナークロスで取り除いてください。

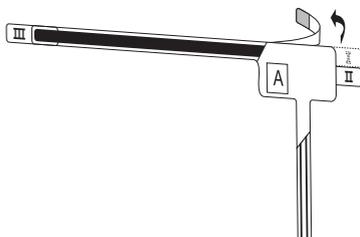


注：クリーナークロスで拭いたあとは、貼り付ける場所およびエレメントには触れないでください。

5 フィルムアンテナを貼り付ける場所を、十分に乾燥させる

6 セパレーター I をはがす

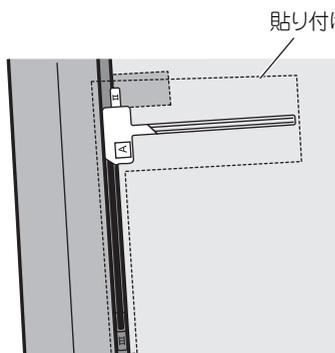
タグを持ってセパレーター I をゆっくりはがします。



※ セパレーター I をはがしたあとは、粘着面に触れないでください。

7 フィルムをフロントウィンドウに貼り付ける

ガラス面の目印にフィルムを合わせ、フィルムに空気が入ったり、シワが寄らないようにゆっくりと端から貼り付けます。また、一度貼り付けたフィルムをはがしたり位置を変えたりすることはできません。

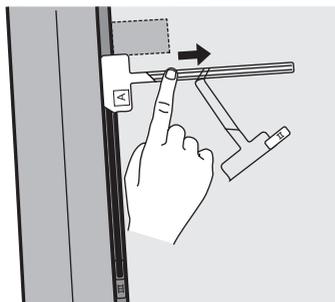


注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温かくなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからフィルムを貼り付けてください。

※ ガラス面が乾いたことを確認してから貼り付けてください。ガラス面が濡れているとフィルムがガラス面に貼り付かないおそれがあります。

8 セパレーターⅡをはがしながらエレメントを貼り付ける

指でエレメントをガラス面に押しつけながらセパレーターⅡをはがしてください。



注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温かくなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからエレメントを貼り付けてください。

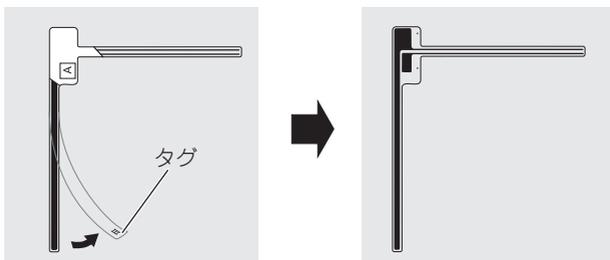
※ 手順 11 でアンブを貼り付ける部分には触れないでください。

フィルムアンテナの取り付け

つづき

9 保護フィルムⅢをはがす

エレメントがガラス面に貼り付いていることを確認しながら、タグを持って保護フィルムⅢをゆっくりはがします。



エレメントだけが貼り付く

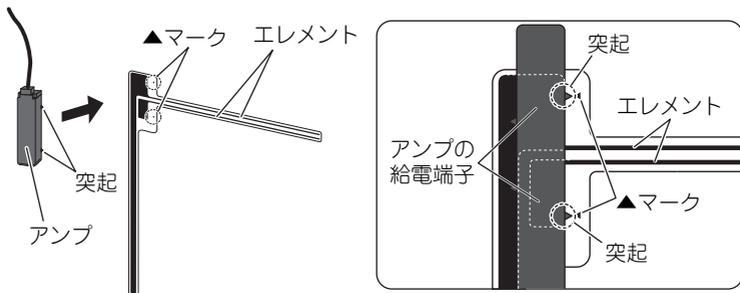
※ エレメントが保護フィルムⅢと一緒にはがれる場合は、保護フィルムⅢを元に戻してガラス面に貼り付くように強く押しつけてください。

10 残りのフィルムアンテナも同様に貼り付ける

11 アンプをエレメントに貼り付ける

アンプの裏シートをはがして、エレメントの給電端子接触部の▲マークと、アンプの給電端子の突起を合わせるように貼り付けます。

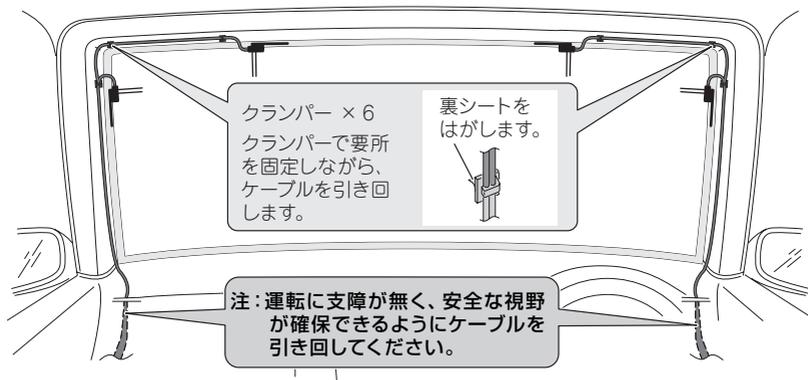
組み合わせるフィルムアンテナとアンテナケーブルは決められています（※ 33 ページ）。アンテナケーブルにある番号を確認のうえ、手順 12 に記載しているイラストどおり貼り付けてください。



注：フィルムアンテナの▲マークとアンプ部の突起を合わせないと、受信できません。

注：ケーブルを引っ張った状態で貼り付けしないでください。

12 ケーブルを引き回す



注：危険ですので、運転席の足元付近は、配線を引き回さないでください。

13 内張りを元に戻す

注：アンプのケーブル根元部に負荷がかからないように注意してください。

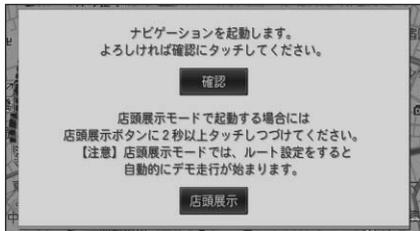
接続・取り付けの確認を行う

接続・取り付けが終わったら、本機を動作させ、接続・取り付けの確認を行ってください。

1 車のエンジンをかける



2 次の画面が表示されたら確認にタッチする

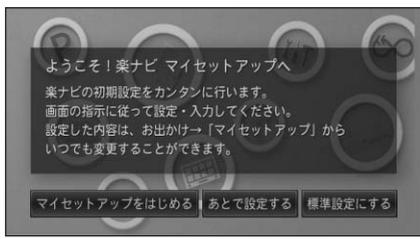


この画面は、初期学習が完了していないときにエンジンをかけると表示されます。

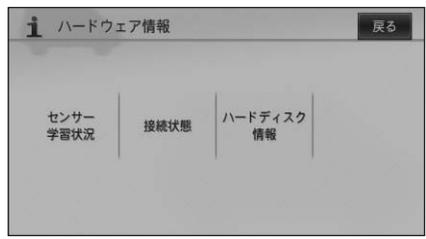
ご注意

- 店頭展示にタッチしないでください。タッチしてしまった場合は、一度車のキーを抜いてから、エンジンをかけ直してください。

3 次の画面が表示されたらあとで設定するにタッチする



4 地図画面が表示されたら「お出かけ」→情報・通信／設定→ハードウェア情報→接続状態の順に操作する



5 接続状態を確認する (2次ページ)



6 接続状態を確認したら、「Navi」ボタンを押す

接続状態画面の見かた

車速パルス

車速信号入力（ピンクリード線）の接続状態を確認できます。正しく接続されていれば、車を走行させると“ピッ”と発信音がして、数字とバーが表示されます。数字とバーは本機が測定したパルス数をあらわしています。“ピッ”音とパルス数は速度によって変化します。車速パルスの確認は、低速（時速5km程度）で行ってください。

電源電圧

車のバッテリーから本機に供給されている電源電圧が表示されます。エンジンアイドリング時に11V～15Vの範囲にないときは、電源コードの接続状態を再度確認してください。なお、表示誤差（±0.5V程度）があるため、この表示は参考値です。

イルミネーション

イルミネーション（橙/白リード線）の接続状態を確認できます。車のライトを点灯させてください。ライトを点灯すると[ON]、消すと[OFF]が表示されます。

バック信号

バック信号入力（紫/白リード線）の接続状態を確認できます。パーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでから、シフトレバーをR（リバース）の位置からR（リバース）以外の位置にするとLOWからHIGH、またはHIGHからLOWに切り換わります。

パーキングブレーキ

パーキングブレーキスイッチ（若草色リード線）の接続状態を確認できます。ブレーキペダルを踏んで、パーキングブレーキをかけ直してください。パーキングブレーキを解除すると[OFF]、かけ直すと[ON]が表示されます。

Bluetoothユニット

Bluetoothユニット「ND-BT10」の接続状態を確認できます。正しく接続されていれば[OK]、未接続の場合には[NG]が表示されます。その下には、現在接続中のBluetooth機器の接続情報（接続機器名、BDアドレス、使用プロファイル、受信強度）が表示されます。

※接続情報を確認するには、ナビゲーションのBluetoothの接続設定を行い、Bluetooth機器と通信接続する必要があります。詳しくは「ナビゲーションブック」の「Bluetoothの接続設定を行う」をご参照ください。

ETCユニット

ETCユニットの接続状態を確認できます。必ずセットアップしてから確認してください。正しく接続されていれば[OK]、未接続の場合には[NG]、エラーがある場合はエラー番号が表示されます。

GPSアンテナ

GPSアンテナの接続状態と受信状態を確認できます。正しく接続されていれば[OK]、未接続の場合には[NG]が表示されます。

右側に表示されるアンテナマークでGPSアンテナの受信状態を確認できます。電波の受信しやすい見晴らしの良い場所で2本以上バーが表示されていれば良好です。バーが1本以下の場合には、GPSアンテナの位置を変えて2本以上バーが表示される位置に取り付けてください。

その下に表示される衛星マークで、現在捕捉できているGPS衛星の個数が確認できます。測位に使っている衛星は橙色、受信中の衛星は黄色、電波を受信できない衛星は黒色でそれぞれ表示されます。3つ以上の衛星の電波を受信すると現在地の測位が可能になります。

取付位置

ナビゲーション本体の取り付け状態を確認できます。必ずエンジンをかけた状態で停車して確認してください。停車時に[NG（振動）]が表示された場合は、測位の精度が悪くなります。車の振動が少ない位置にしっかりと取り付け、停車時に[OK]が表示されるのを確認してください。また走行後に[NG（取付角）]が表示された場合は、ナビゲーション本体の取付角度が許容範囲外です。取付角度（44ページ）を設定し、走行後に[OK]が表示されるのを確認してください。

ビーコンユニット

ビーコンユニットの接続状態を確認できます。正しく接続されていれば[OK]、未接続の場合には[NG]が表示されます。

通信モジュール

通信モジュールの接続状態を確認できます。正しく接続されていれば[OK]、未接続の場合には[NG]が表示されます。

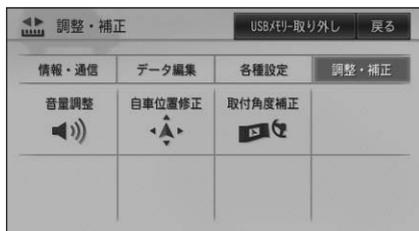


取付角度の設定を行う

運転席側（左右方向）に 5 度以上（最大 10 度）傾いたコンソールにナビゲーション本体を取り付けた場合は、本来の性能を発揮するために取付角度の設定を行ってください。

1

地図画面で、「お出かけ」—情報・
通信 / 設定—調整・補正—取付
角度補正 の順に操作する



2

設定画面が表示されたら、向き
を選ぶ



3

向きを設定したら、「Navi」
ボタンを押す

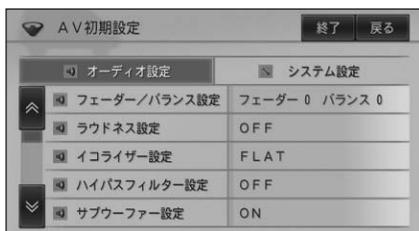


サブウーファーの設定を行う

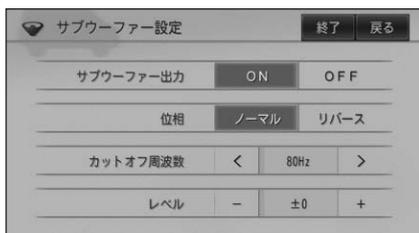
本機にサブウーファーを接続したときは、サブウーファーを固定したあと、車の窓やドアを閉めた状態でサブウーファーの設定を行ってください。

1 低音を含む音楽を再生する

2 「AV」 ボタンを押し、初期設定 -サブウーファー設定にタッチ する



3 各項目を選び、設定を行う



サブウーファー出力	ON に設定します。
位相	違和感が無く、低音の音量が大きく聞こえる方を選びます。
カットオフ周波数 ／レベル	適切な音質に調整します。

4 設定を終了したら、「SRC」 ボタンを 2 秒以上押す

接続・取り付けが終わったら

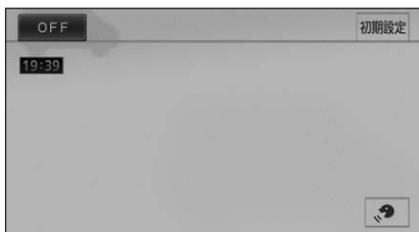


AV 初期設定を行う

本機に外部機器を接続した場合は、AV 初期設定を行ってください。

1 「AV」 ボタンを押す

2 初期設定にタッチする



3 ▲、▼でページ送りさせて設定する項目にタッチする



映像入力設定

本機に VTR またはマルチ DVD プレーヤーなどを接続したときに設定します。

VTR	VTR など、本機でコントロールしない映像機器を接続したときに設定します。
EXT	マルチ DVD プレーヤー「XDVP70」など、本機でコントロールできる映像ソースのエクスターナルユニットを接続したときに選びます。
OFF	どちらも接続していないときに選びます。

カメラ設定

本機にバックカメラを接続したときに設定します。

バックカメラ + フロントカメラ	本機にバックカメラ「ND-BC30II」を接続し、「ND-BC30II」にフロントカメラ「ND-FC100II」を接続したとき。
バックカメラ	本機にバックカメラを接続したとき。
OFF	バックカメラを接続していないとき。

バックカメラ極性

本機にバックカメラを接続したときに車のバック信号の極性に合わせて設定します。

HIGH	接続状態画面 (☞ 40 ページ) で、シフトレバーをバックに切り換えたときに「バック信号」の表示が [HIGH] になる車両の場合はこちらを選びます。
LOW	接続状態画面 (☞ 40 ページ) で、シフトレバーをバックに切り換えたときに「バック信号」の表示が [LOW] になる車両の場合はこちらを選びます。

AUX 設定

本機に RCA・バスインターコネクター「CD-RB10」などを使用して、外部機器の音声を入力するときに設定します。

ON	外部音声を入力するとき。
OFF	外部音声を入力しないとき。

5.1ch DSP ユニット設定

本機に 5.1ch 対応・DSP ユニット「DEQ-P9」などを接続したときに設定します。(ソースを OFF にしないと、設定できません。)

ON	接続したとき。
OFF	接続していないとき。

メモ

- 他の設定項目については、『オーディオブック』 - 「AV 初期設定」をご参照ください。

4 各項目を設定したら、**終了**にタッチし、「Navi」ボタンを押す



センサー学習のエラーメッセージ

接続確認と各種設定を完了し、走行を開始すると本機は自動的に 3D ハイブリッドセンサーの初期学習を行います。その際、つぎのようなエラーメッセージが表示されたときは、エラーの原因を取り除いてください。

<走行開始後のエラーメッセージ>

- **【車速信号線が外れました。接続を確認してください。】**
- **【車速パルス信号が異常です。接続を確認してください。】**
ピンクリード線（車速信号入力）の接続先および接続状態を確認してください。
- **【3Dハイブリッドセンサーが正常に動作していません。本体の取付け角度や向きを確認してください。取付けが正常な場合は、お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください】**
「ナビゲーション本体の取り付け（☞ 23 ページ）」を参照して、取付角度が間違っていないか確認してください。取付角度が正しい場合は、内蔵センサーの故障が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- **【車速パルスが接続されていません。簡易ハイブリッドで動作します。】**
ピンクリード線（車速信号入力）を接続してください。接続すると、3D ハイブリッドで初期学習をやり直します。

<その他のエラーメッセージ>

- **【測位不能になりました。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。】**
ナビゲーション本体の故障、劣化等が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- **【GPS アンテナが接続されていません。接続を確認してください。】**
- **【GPSアンテナが異常です。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。】**
GPS アンテナの接続を確認してください。正しく接続されている場合は、断線・故障・劣化等が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- **【内蔵のセンサーが異常です。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。】**
内蔵のセンサーの故障が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- **【取付け位置の変化を検出しました。センサーの再学習を開始します。】**
本機の取り付け位置の変化を自動で検出した事をお知らせするメッセージです。

